

見比べてみよう！網干のみどころ 今と昔

網干昔MAP

② 誠塾

まことじゅく



林田藩の儒学者河野鉄兜の弟・河野東馬が慶應4年(1868)に設立した私塾。明治政府から民部省判事として召されたが辞退し門弟人の育成に努めた。老朽化のため崩壊寸前の所、地元有志で買取り姫路市に寄贈し、翌年姫路市の重有形文化財に指定された。

⑤ 西方寺

さいほうじ



安楽山西方寺。天文2年(1533年)に慶雲上人開基の浄土宗西山派の寺。盤珪禪師の兄、壽傳上人の代に徳川家光公より御朱印を与えられ葵の御紋が許された。江戸時代の浄土宗の寺院形式が残る寺。本尊は、阿弥陀三尊(鎌倉時代前期)。寺宝は仏牙舍利、仏涅槃図等。

⑧ 陣屋門跡

じんやもんあと



江戸時代、龍野藩主の京極家が丸龜に移封後も網干に一万石の陣屋を置き、奉行を派遣し政務を行っていた。明治3年(1870)建物は取り壊され、陣屋門だけが残された。現在の建物は、昭和62年に復元改築され、往時をしのぶ貴重な遺構とされている。

⑪ 大覺寺

だいかくじ



1233年隆禅上人が古網干に釈迦堂を創建、のち真言宗光接院と称したが戦乱により焼失。1558年当地に移転、浄土宗鶴立山大覺寺と改められた。江戸時代は、朱印地30石、葵の御紋が許されていました。1634年本堂が建てられ、その後諸堂が造営され今に至っている。

⑭ 網干じばさんひろば 魚吹津

うすきつ



「地元の匂を味わえる場に」と姫路市漁協網干支所が網干港内に2017年11月新設。水産物直売所、丼の店、イタリア料理、鉄板焼等の個性豊かなお食事が好評。

■水曜(祝日の場合翌日)休
■⑩50台

③ 魚吹八幡神社

うすきはちまんじんじゃ



建立は320年。祭神は、応神天皇、神功皇后、玉依姫命。秋季例祭は別名「提灯祭り」としても有名。25ヶ村の氏子が集まり屋台18台、燈籠4台が勢ぞろいする播磨で屈指の祭り。2007年に建物とともに県無形民俗文化財に指定された。

⑥ 義徳院

ぎとくいん



盤珪国師の生誕地。母・尼公の入寂された所である。後に盤珪国師の妹・寿清尼によって僧業された。境内には盤珪国師の誕生記念碑と産湯を使ったという古井戸や遺品などが保存されている。

⑨ 水井家住宅

みずいけじゅうたく



大正11年、材木問屋の2代目・薰(ただす)によって建てられました。大正時代の建物で、戦前まで材木問屋を営んでいた事もあり、屋敷構えは豪壮で、太さの掘った材木は質を尽くしています。平成23年に姫路市都市景観重要建築物に指定された。

⑫ 旧網干銀行本店

きゅうあほしがんこうほんてん



明治29年1月網干町新在家に網干銀行網干支店を開設。地域煉瓦建て銅板葺き、円形に処理された頂部に載る葱坊主型のオジー・ドームがこの建物を特徴。昭和40年(1965)新築移転し本館は業務を終えた。市の指定景観重要建築物に指定。

⑮ 姫路市立網干環境楽習センター

ひめじしりつあほしかんきょうがくしゅう



多彩な展示物で身近なリサイクル活動をわかりやすく紹介。さまざまな体験を通して、楽しみながら環境問題について学べます。また、木工・自転車の再生工房やガラス工房、水工房等リサイクル体験ができる多目的工房も備えています。

① あぼしまち交流館



TEL.079-255-8001
<http://aboshimachi.com>

あぼしまち交流館は、地域の皆様の交流活動や文化的活動にご利用いただける施設であり、網干観光の拠点となります。

各種展示会、会議、研修、講習、講義等、産業活動の拠点としてグループやサークルの集いの場などの文化教養・地域のコミュニケーションセンターとして広くご活用できます。

■水曜休館 ■⑩30台

あぼしまち交流館



④ 龍門寺

りょうもんじ



臨済宗妙心寺派の禅刹。人々が生まれながらに持つ仏心に気づくよう呼びかけ、「不生禅」を説いた盤珪国師が1661年に再開基。市指定文化財の禅堂をそなえており、毎年4月の第1日曜日とその日に開催される龍門寺大茶会は大茶わんを使ったお点前で有名。

⑦ 不徹寺

ふてつじ



元禄四俳女の1人田捨女が開いた寺。1633年丹波、柏原の生まれ6歳の時「雪の朝二の字二の字の下駄の跡」と詠じて驚かせた。夫季成死後浄土宗に出て妙融と名乗っていたが盤珪国師に出会い弟子入り貞閑尼と改名、龍門寺近くに不徹庵を開いたとされています。

⑩ 山本家住宅

やまもとけじゅうたく



約1800m²の敷地に母屋と洋館、和館離れのが3棟。主屋は明治初期、和館・洋館は大正3~7年に当時の網干銀行頭取の山本真蔵により建設された。3階の望楼や、ステンドグラス、絵が描かれた貝合わせが壁一面に埋め込まれている洗面所など価値ある建造物。
(第1・第3日曜日は内部公開)

⑬ ダイセル異人館

だいせいるいじんかん



明治41年に創設されたダイセル化学工場敷地内に2棟ある洋館。セルロイドの技術指導を担当したイギリス・スイス・ドイツの技師5名の住宅として建てられた。市の都市景観重要建築物に指定され、県の住宅百選にも指定。現在も資料館として開放されている。

⑯ リフレ・チョーサ



ごみの焼却余熱を利用した健康増進施設です。1階は温水プールやトレーニングジム・スタジオ、喫茶コーナー、2階は温泉浴施設があります。
また、屋外には近畿最大級の6コースが設定できるグラウンド・ゴルフ場(ナイヤー設備完備)もあります。

